

いまさら あのよこのよ へだて有る神の掟は術も無し問へど答へず
今更に幽冥現世の隔て有る神の掟は術も無し問へど答へず
目に見へず御霊の行方を訪ねつつ四季時々の御祭を仕へ奉
りて在る中に今日の御祭美敷く厳しく仕へ奉らむと命の
在りし現世をば昔を遠く忍ぶれば身体に宿りし御霊こそ
ももよ たに足らぬ借りの宿其の土地土地の産土の神より受け
し直霊こそ穢さじ曇らじありけるも和魂幸魂奇魂荒魂
なる働きは清く正しく在りなむと心の迷ひ祓へども
不知不知に犯しけむ浮き雲かかり曇らせる罪の深さも深
けれど償ひ難き過ちも神の恵みの御手振に見直し給ひ
聞きなお たかき尊き神々の御列に入らしめ愛で給ひ建き大し
き恩頼を光輝かじめ給ふこそ有難き幸せとも云ふべけ
れさりとして人は現世に悪しき事のみ残せる者に非らずして
亡き人の残し給へる数々の手形足形言の葉に数もあへなき
事柄を残し給ひて後の世の人の鑑と成ることも尚多かる
を今にして御祭り仕へ奉る度関係る人の心根に呼び戻され
て懐かしく仕草言ひ草事々に噴井の如く湧き出でて尊き
御霊親はしくその面影の忍ばれて残せし絵姿見る度に
言葉交して語り合ひ手取り合はむと欲すれども現世幽世
の隔あり為む術知らに悲しみて泪は袖に関あへず千々の
ひとつもその恵御座時に返し得ぬ悔の八千度如何に為む其の
亡き跡は其の御霊厚く祭るの外ぞ无き祭るに付けて何事
も有りし昔に違ふ事変る事無く善く務め善く行ひて譲り
得し家を富ましめ身を正し誠を尽し懇に忍び奉りて其
の御霊式の随に美しく真心尽し厳しくも仕へ奉りし御祭
を御霊も穏ひに聞食し安く静けく鎮りて子孫の身をも家
をも遠永に守り導き幸へませと謹しみ敬ひて御霊慰め
鎮め奉らくと白す